

Feu+LSR

越原記念館

地域に発信する照明演出。
ホワイエロビーとして必要な明るさ感を実現し、
「Feu」の実測で検証した。

●物件概要

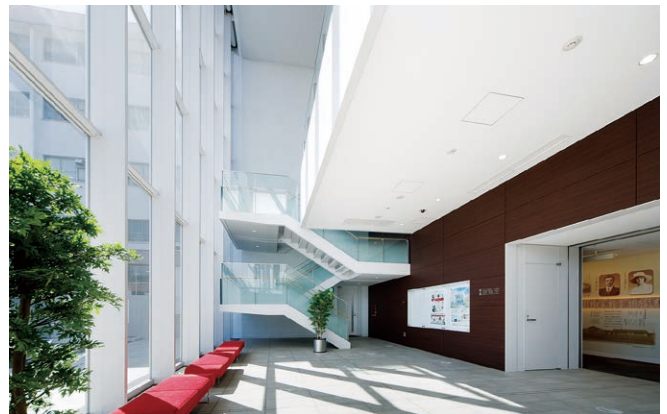
所在地:愛知県名古屋市
施主:学校法人越原学園
設計監理:株式会社青島設計
施工:株式会社石田組
電気工事:川北電気工業株式会社
竣工:2009年1月
担当部署:名古屋照明EC



正面夜景：天井を明るく照らし出す照明と外壁のライトアップが、シンボリックな印象を生み出す。



昼景：全面ガラス張りの開放感あふれるファサードが、地域に開かれた建物を演出。
PHOTO：エスエス名古屋



昼景：1階コミュニケーションホール
PHOTO：エスエス名古屋

アクティビティを表出する照明

越原記念館は名古屋女子大を中核とする学校法人越原学園の文化施設。創立100周年に向けた事業計画の一環として建設された。

1階には学園の歴史をはじめ、文化的に価値のある資料を公開する展示室。2階は、学生や教職員、同窓生の作品発表などに利用できる約130席の講堂兼小劇場。3階には資

料収蔵庫が配置され、地域住民との交流も可能な文化拠点となる。

3階建ての建物は、ファサード全面がガラス張りになった開放感あるデザイン。照明計画のポイントは、ファサードに面した共用部を明るく照らし出し、地域に発信する施設としてのアクティビティを表現することにあった。照明計画はシンプルに極力器具を見せずに空間を創ることを目指した。



2階ホワイエロビー：左の壁面に天井を照らすシーリングウォッシャーを設置。タイルカーペットの床面にはフットライトの柔らかな光が伸びる。



1階コミュニケーションホール：サッシのフレームを照らし、吹抜けの明るさ感を得ている。



1階コミュニケーションホールを外部から望む。

Feu を取り入れ、明るさ感と 落ち着きを両立

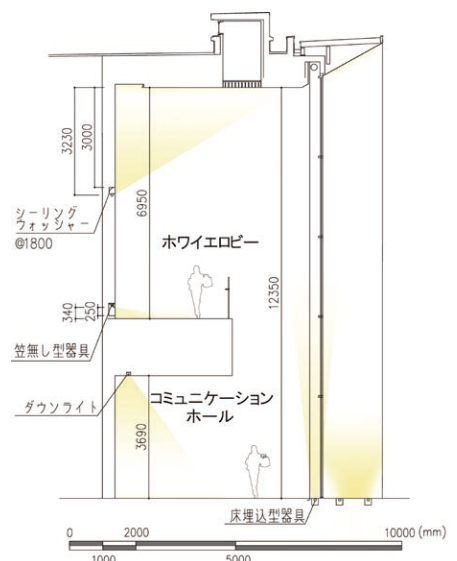
当初は天井面にダウンライトを設置し、壁面にブラケットを配するプランを検討した。しかし、ダウンライトでは天井面を明るくできない。また、高天井でメンテナンスも難しい。そこで、天井全面を照らすことで明るさ感を高める「Feu」の考え方を提案。光の回り方と空間の明るさ感をLSRでシミュレーションした。

壁面に150形セラメタ・シーリングウォッシャーを組み込み、均一に光を照射する。さらに足元には、32形Hf蛍光灯・笠無し型器具を組み込んで、床面の明るさを得た。

Feuの提案によって十分な明るさ感と落ち着きのある空間が実現でき、高評価が得られ、完成後、実測実証を行った。

2階ホワイエロビーのFeu値は、実測4.3。曇り気のある落ち着いた空間づくりが成功している。また床面照度は平均290lx、最小50lxを確保している。

エントランスホールであるコミュニケーションホールは32形コンパクト型蛍光灯・ダウンライトを壁際に寄せて連続的に配置し壁面を照らす。窓際には35形HCl-TC・床埋込型器具を設置し、開口部のサッシのフレームをライトアップ。吹抜けの明るさ感を得ている。床面照度は平均100lxを確保している。



共用部照明計画 断面イメージ

LSRによる照明手法の検討パターン

天井にダウンライトを設置した場合、建築化照明を施した場合、床に埋込型器具を設置した場合などの各プランを比較。



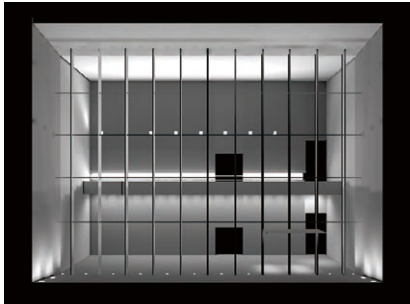
A案:ユニバーサルダウンライト



B案:コーニス照明



C案:グレアレスアップライト



採用した照明案 / 2階:シーリングウォッシャー + フットライト
1階:ダウンライト



2階ホワイエロビーの明るさ感を確認するためのシミュレーション画像

Feu値の実測

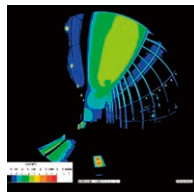
視点1



視点2



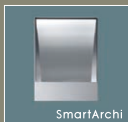
Feu 4.3



Feu 3.7

主な使用器具

● NYY65500
MT150W



● FSA41030F
FHF32W × 1灯



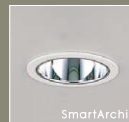
● YYY65302
HCI-TC / E35W



● NFT31754K
FHT32W



● NYY12501
JR12V50W



INTERVIEW

建築設計の立場から

LSRのシミュレーションで、 ベストな照明手法が選択できた

株式会社 青島設計
設備設計室 室長 岩谷 真栄様

2階ホワイエロビーのシーリングウォッシャーによる照明は、結果としてFeuを導入した成功例になりました。デザイン的にも建物とマッチングしています。

照明プランをLSRのシミュレーションで事前確認し、具体的な検討ができたことでベストな選択になったと考えます。

ダウンライトだと照度は取れるが天井が暗くなって、白く輝く空間にはならなかった。また納まりやメンテナンスの点でも問題が残ったと思います。

柔らかな光が床からふわっと広がる足元のライトも含めて、光源が見えないのでグレアもなく、雰囲気の良い照明空間になっています。この事例を機会に、さらに積極的にFeuを取り入れていきたいですね。

シンボリックなイメージを 増幅する照明効果が得られた

株式会社 青島設計
設計室 主任 櫻木 博章様

越原記念館の主な機能である展示・講堂・収蔵の3つの空間をひとつの木箱にまとめて、学園の創始者が考案した名古屋帯にちなんだバールで包むというシンボリックなイメージとしています。照明は、透明感を出すために、真っ白なバールを浮かび上がらせるように計画しました。

照明手法をLSRのシミュレーションで決定し、最終的にフットライトを追加することで照度も確保するという結論が出ました。Feuを取り入れることで、落ち着いた照明効果が実現し、茶色の壁とシーリングウォッシャーで照らし上げたシンプルな白色の天井の仕上がりがよく合っています。

詳しい内容は担当EC(名古屋照明EC)にお問い合わせください。